

里地里山保全・再生の特征的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.101		ハイツカ湖地域		生物地理区分		アカマツ林	
				地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	広島県		地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	庄原市、三次市			4.低地	5.その他	
	集落名称等	木屋、稲草(田総の里)、仁賀、灰塚(のぞみが丘)、安田		環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
					4.畑	5.小川・水路	6.ため池
7.池沼・湿地		8.社寺林	9.人工林				
10.その他							

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
鳥獣特別保護地区 天然記念物(県)イロハモミジ群、エドヒガン、(市)セツブンソウ	天然記念物(県)領家八幡神社の社叢
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
里山環境:セツブンソウ、カタクリ、ユキワリイチゲ、シラカシ林 等 谷戸環境:ダルマガエル、カスミサンショウウオ 等	写真集などの出版物がある、観光パンフレット等に写真が使用されている、風景探勝や撮影の来訪者が多い、里地里山をテーマにした芸術活動がある



撮影時期:2008年4月  
写真の説明:里山・田園環境  
田総川沿いに里地里山をテーマにしたアースワーク活動によってデザインされた「なかつくに公園」。田総川にはアユをはじめ多様な生物が生息する。

撮影時期:2007年3月  
写真の説明:里山環境  
日本有数のセツブンソウの自生地。セツブンソウ(環境省絶滅危惧、市天然記念物)は、春植物として地元で大切にされ、節分草祭の間のみ一般公開される。



撮影時期:2006年  
写真の説明:湿地環境  
ハイツカ湖の湿地(ウェットランド)希少な鳥類、魚類、両生・爬虫類等の生息場になっているとともに、地域の環境学習等の拠点として利用されている。

撮影時期:2010年10月  
写真の説明:谷戸環境  
知和ウェットランドの谷戸地区において、絶滅危惧種であるダルマガエルの保全が行われている。

NO.101		ハイヅカ湖地域		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	広島県			2.団体・企業・学校等
	市町村	庄原市、三次市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	木屋、稲草(田総の里) 仁賀、灰塚(のぞみが丘) 安田			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他(ダム守同心会議)	

取組主体	主な主体の名称	木屋、稲草(田総の里) 仁賀、灰塚(のぞみが丘) 安田	
	その他の主体の名称	ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会、国土交通省灰塚ダム管理支所 ダム守同心会議(「ダム守同心活動」:ハイヅカ湖周辺住民、関係機関、灰塚ダム管理支所が連携して、ハイヅカ湖やハイヅカ湖周辺の地域の美しく豊かな自然環境を保全する活動)	
目的 :主 :その他	<b>1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)</b>		
	対象・取組内容	<p>1.里山の適正管理に向けた間伐材や雑草等の活用(草レチック大会、田総川を丸ごと食べる会)</p> <p>【内容】 里山管理の課題である間伐材や雑草の活用、 笑湖(エコ)料理の試食会</p> <p>【維持・活性化のための取り組み】</p> <p>里山保全の公園(なかつくに公園)において草レチック大会(雑草を食う会)を開催し、間伐材や雑草の活用方法を参加者で考え実践する。</p> <p>田総川をまるごと食べる会と称して、地元の食材(アユ、コイ、ギギユウ、クレソン)に加え、笑湖(エコ)料理(ブラックバスやブルーギル料理、水質浄化効果のある空心菜料理)の試食会を開催し、地域の里山を楽しく守る活動を啓発してもらう。</p> <p>2.水田の持つ環境保全機能の活用(のぞみが丘の冬水田んぼ、大谷植物園)</p> <p>【内容】 冬季の水田利用、水田跡の利活用</p> <p>【維持・活性化のための取り組み】</p> <p>冬季の水田利用(のぞみが丘の冬水田んぼ):収穫が終わった水田に改めて水を張り、両生類や魚類等の生息場・産卵場、また、鳥類の採餌場としての活用を図る。</p> <p>水田跡の利活用(大谷植物園):水田跡について、荒廃防止及び良好な湿地環境を形成するために、湿地性植物園として活用。またレンコンを栽培し、地域のたのしみの一つとして活用。</p>	
	支援措置		
	<b>2.バイオマスなど新たな資源としての利用</b>		
	対象となる資源	ハイヅカ湖地域の物質循環の取り組み(湖岸及び湿地の雑草及び湖底堆積土の活用)	
	利活用方法等	湖底に堆積した土を浚渫し、ハイヅカ湖の水質浄化を行うとともに、堆積土を乾燥させて、貯水池内の雑草から作ったたい肥との混合材として活用し、上流側の農地等で活用することで、ハイヅカ湖へ流れ込む窒素等の物質を還元させ、流域内での物質循環のシステムの構築に取り組む。	
	<b>3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用</b>		
	自然観察会	*	笑湖(エコ)楽校 : 湖沼や湿地に飛来する鳥類の観察会
	環境教育・学習活動	*	笑湖(エコ)楽校 : 湖沼や湿地に関する勉強会、環境教育指導者の育成のための各種講座の開催、小学校等の学習支援の実施
	里地里山体験・環境保全	*	良好な湿地の保全・管理活動
農林業体験活動	*	水耕栽培による水質浄化を兼ねた特産品(笑湖(エコ)野菜)の開発	
エコツアー	*	笑湖(エコ)楽校 : 湖面探索ツアー	
その他			
	<b>4.野生動植物やその生息地の保全・管理</b>		
	取組内容	セツブンソウ(日本最大群落)やカタクリ・ユキワリイチゲ等の春植物の保護・移植活動 ダルマガエルの保護活動及び生息地となる谷戸の保全 ブッポウソウの繁殖保護活動 湿地に生息するブラックバスの駆除(貯水位低下による産卵床干し出し、人工産卵床) オオタカ・ミサゴ等の猛禽類のモニタリング フラッシュ放流の実施(下流河川の付着藻類の剥離・更新、アユの生息環境保全)	

	<b>5.地域の良好な景観の保全・修復</b>	
	取組内容	・眺望点やその周辺を中心に、除草や清掃活動 ・景観保全のためにセイタカアワダチソウ等の駆除・抜根
	<b>6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承</b>	
対象	生活行事	* とんど焼き、節分草祭、おいでん祭り
	資源利用技術	
	その他	* 地元産大豆やレンコン等を使った地元料理
	取組内容	地元産大豆を使った味噌づくり教室やレンコン料理の試食会などを実施
	<b>7.その他</b>	
	取組内容	里地里山の保全をテーマにした芸術活動：アースワーク
連携・協働による取組内容・役割分担等	<p>ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会及び分科会（住民、学識者、自治体、関心者、国交省等）：地域の資源を活用した自立的・継続的な地域の活性化</p> <p>【役割分担】 住民・関心者：地域資源を活用した地域の活性化について、地域の魅力発掘、里地里山保全とその活用等を検討及び取り組みの実行、 学識者：里地里山の保全に向けたアドバイス等、 自治体： の活動に対する連絡・調整、 国交省： 、 の取り組みに対する情報・人・道具等の支援</p>	
取組の特徴や強調したい点	<p>里地里山の保全に加え、その利活用や地域の活性化を、住民主体となって検討し、実行している。当該地域は、全国でも有数の高齢化・過疎化が進行している地域であるが、逆境をバネとして、基本方針「笑湖(エコ)ハイツカ」を掲げ、参加者全員が主体性を発揮していくために、「やりたいこと」「たのしいこと」など、地域の要望・アイデアを中心に実行することとしている。また、定期的に話し合いの場を設けることで、地域間の交流を促進させるとともに、互いに助け合う・支えあう意識の醸成に寄与していると考えられる。</p> <p>セツブンソウ県内最大の自生地：総領町では、亀谷から木屋地区の田総川の左岸側の北向きの山裾に点々と自生地がある。開花時期は2月中下旬～3月中旬。セツブンソウは、下草を刈らなければ育たず、総領町に自生地が残ったのは、北向きの斜面に農家や墓地があり、下草が刈り続けられたためと思われる。1986年（昭和61年）春に上下自然愛好会により自生が確認されて以来、総領町はセツブンソウの自生地として広く知られるようになった。開花期には節分草祭が開催され、地域住民からなる『花守り(はなもり)(節分草ボランティアガイド)』が、観察に訪れた方々へ節分草自生地の案内が行われている。</p> <p>貴重植物の保護：灰塚ダム建設に伴う水没地には、三次市天然記念物であるカタクリ、アズマイチゲ、ユキワリイチゲなどの希少種が確認されたため、地域住民と連携して貴重植物の保護活動（移植）を行った。また、地域住民により移植後の管理においても実施されている。</p> <p>ウェットランドを中心とした環境保全の取り組み</p> <p>地域の方々などでウェットランド団を結成し、灰塚ダム知和ウェットランドを中心とする地域で環境保全・環境学習の取り組みを行っている。</p> <p>主な取り組みとしては、ウェットランド笑湖（エコ）楽校（水生生物調査）、冬鳥観察会や絶滅危惧種であるガルマガエルの保全活動等があげられる。</p> <p>また、地域の方が中心となりブッポウソウの保全にも取り組んでいる。</p>	
取組の概要	多様な主体の参加により、水源地域の生息環境保全と地域活性化	課題グループ
事例の特性	住民主体の取組促進の仕組み(中山間地)	野生生物 仕組 手法
取組の中で他の地域の参考となる点	地域ビジョン推進委員会で里地里山の保全活用や地域の活性化を住民主体となって検討し、学識者も協力して間伐材や刈り取った雑草等の活用、水田の持つ環境保全機能の活用、貴重な動植物の保全の取組などを実践している。	